

20015

急変時対策！カテ室スタッフ教育の試み ～チームで守ろう患者の命～

<sup>1</sup>岸和田徳洲会病院

木下 博子<sup>1</sup>、栗山 晴年<sup>1</sup>

当カテ室では「いかなる状況においても迅速に対応できる」を目標に始業前点検を日々行っている。また、看護師に対して事例検討を行いスキルアップを目指した教育を行っている。しかしカテ室は看護師・医師・コメディカルが携わっており看護師だけが急変時の対応を身につけても、マンパワーは不足し様々な状況に対応することができない。今回カテ室での急変時の対応について問題点を考え、取り組んだ過程を報告する。＜問題点・対策＞1急変が問題になる夜間・休日のマンパワーが最も少ない。2検査技師・ME・放射線技師も「急変時になんとかしたい」という気持ちはあるが、何をしていたのか分からない。3看護師の対応力にも個人差がある。以上の問題を解決するために「カテ室における ICLS 勉強会」を実施することにした。＜目的＞カテに携わるスタッフ全てが急変時における自己の役割を理解し実施できる＜方法＞月1回ペースでの ICLS 勉強会を実施した。＜結果＞アンケート実施＜まとめ＞勉強会を実施したことでカテチームの急変に対する意識は「何をしていたのか分からない」から「自分にも何かができる」というものに変化した。挿管介助・心臓マッサージについても今までは救急カートの存在すら認識していなかったスタッフから、「聞きながらなら介助できる」という声が聞かれるようになった。今回の取り組みは即結果が出ることではないため明らかな結果として報告できないが、今後もカテチームとしての勉強会を継続していくことで成果につながっていくと考える。